

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491300212		
法人名	社会福祉法人 こもはら福祉会		
事業所名	グループホーム 新		
所在地	三重県名張市新田2940-6		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	令和3年5月15日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyoSyCd=2491300212-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和	3年	3月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在新型コロナ禍で、十分に思いを反映することが出来ていないが、お互いの関係性のパイプ役として良く関わりを持ち、その人らしさを尊重した支援に努めている。健康上の変化等の連絡は密に行い、面会に来られなくても安心して頂ける様努めている。家族と協力してこの大変な時期を乗り切っていきたいと常々話し合っている。建物は、開放感のある明るいつくりとなっており、全天候型の開閉式ドームとウッドデッキの設置があり、植物を育てたり、観賞したり、お好み焼きパーティーやお茶会、またボランティアの演舞など多目的に利用できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、名張市郊外に開発された広大な敷地に、同一法人の高齢者福祉施設が立ち並ぶ一角に立地している。すぐ裏手には雑木林が広がり、静かで四季の移ろいを間近かに感じられる環境にある。現在向かいに2ユニットを建設中である。経験豊かな管理者は、常に利用者・職員・家族と同じ目線で交わり、「みんなでワンチーム」の意識を大切にしたいと考え実践している。今年度から、理念を『喜怒哀楽を大切に』とし、利用者が家庭の中で遠慮することなく自分らしさを表出できるような環境づくりを目指している。今年度はコロナ禍でいろいろな制限はあったが、今できることをみんなで考え穏やかな生活ができるよう寄り添った支援が出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本年度から職員の意見を集約した理念『喜怒哀楽を大切に』に変更し共有している。職員が覚えやすく、対応に困ったときなどは、理念に沿って対応することができるようになってきている。出勤した時に見やすい場所に提示している。	利用者が日常の様々な感情を閉じ込めることなく素直に表出できる家庭的な雰囲気づくりを目標に、理念を『喜怒哀楽を大切に』とし、職員全員で取り組んできた。理念を前提にケア会議等で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は新型コロナ流行防止の対策を取っており、直接交流は図れなかった。日々の情報交換等で事業所としての交流に努めた。	今年度はコロナ禍で、外部との交流は殆どなかった。同一建物内の関連事業所の利用者との交流もストップしている。唯一、地域の秋の催しに少人数で参加することができた。今後、管理者がオンラインで地域会議に参加する予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ対策の為外部との交流の機会は極めて少なく、実施状況は残念な結果である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催も一堂に会しての会議は開かれず、文書にて報告、意見があれば何う形式で開催し、意見の収集に努めている。	コロナ禍で例年通りの運営推進会議は開催できなかった。参加予定者には定期的に事業所の状況や取り組みについて文書で報告し、電話で意見の収集に努めた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から保険者との連携は密にとっており、メールでの資料等の交換や、参加できる研修には参加している。	現在2ユニット目を建設中のため、市の職員とは電話やメールで頻りに連絡を取っている。感染防止のマスク・アルコール・手袋などを受け取りに行く際にも担当の職員と話す機会は多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に1度GHケア会議の中で開催。本部の身体拘束廃止委員会は今年度はすべて中止であったが、資料の提供により、他部署の事故、ヒヤリハットをGHでも共有している。コロナ対策の為、不要不急の外出・面会の禁止である意味拘束されている感が強い。	3か月毎に本部から身体拘束廃止に向けた資料が届き、それをもとに管理者がケア会議の場で伝達講習して共有している。身体拘束はもとより言葉の拘束をしないための工夫を話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止研修会は、今年度は法人での開催はできなかったが、資料提供により、職員の個々での学びの場としている。この一年は命を守る事が一番であると職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見については必要であればカンファレンスの際に説明している。本人の思いもあり、ご家族と一緒に話し合っ決定していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で契約時に十分時間を取り説明しているが、契約時の家族の心境として入居することで一杯一杯の為、十分納得されているか定かたなく、不安な点については、カンファの際再度説明を繰り返している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本年度は面会禁止の為十分に要望を聞き運営に反映することが困難である。命を守ることを最優先にすることで了承していただいている。年1回のアンケートを実施している。	コロナ禍で面会は全面的に禁止してきたが、最近では要望のある家族にはガラス越しで面会を許可している。利用者にはその都度分かりやすくコロナ感染症についての話をして納得してもらっている。何かあれば家族へは電話で報告・相談をしている。	昨年度からの課題であった家族アンケートについては、コロナ禍で家族に配布し収集することができなかった。今後確実に家族の意見が収集できるような工夫を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議において職員間で意見を出し合い、検討し、決定して運営をすることを遵守している。	職員は、年に1回自己評価した上で上司と個別面談を受けている。日常の勤務の中で職員から提案や要望があれば検討して実践に結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を実施しており、法人内の異動希望調査等で希望を反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は職員に関する研修は文書にて教育する形をとっている。必要な認知症実践者等の資格講習受講や介護福祉士、介護支援専門員の受験講座も研修の一環として開講、オンライン受講を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は『3密禁止』の為、電話での情報交換にとどまっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを十分伺い、出来ることできない事を事前に話し合い、精神的に落ち着き、安心して生活できる環境づくりを一緒にする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族間のいろいろな問題点を話し合い、本人に対して家族に協力を頂きながら、本人の笑顔での生活を目標に支援している。本人の表情の穏やかさに家族も安心して頂けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはグループホームでの生活に馴染んで頂ける様努め、家族が入居させた事に良かったと思って頂ける様支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリの場として、支援される側だけに立つことなく、役割を持ち、共に思いやり、自然な共同生活を営める支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所が出来ることできない事を把握して頂き、必要時には様々な場面で本人に一番適切な支援が出来る様協力関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本年度は外出の機会も少なく、なじみの方との交流も手紙や電話と限られてしまっている。感染対策をしながら、馴染みの美容室へは行ってもらっている。新しい携帯電話の操作を一緒にしている。面会にzoomを活用している。	コロナ禍で家族を含め全面的に面会は中止しているが、ある利用者の家族から毎月手書きで大きく書かれたファックスが届き利用者の喜びに繋がっている。外出できないこともあり、テレビの昔話や昭和歌謡などで回想法に結び付けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの会話の機会が多くなっており、共同制作や共同作業、運動会や季節の行事でお互いに協力し合って行動できるよう職員の仲介で、ある程度の距離感をもった支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後の関係づくりには特に意識してはいないが、時々訪ねて来て頂ける方もあり、利用中の関係づくりが大切と認識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話で、本人の思いや生活歴を引き出し、希望や意向の把握に努めている。どうしてもうまくかみ合わない利用者同士は、食事の席を離したり、食事の時間をずらしたり、散歩に行くなど、距離感をとって生活してもらっている。	入浴支援で1対1になる時などにゆっくりと話を聞き、意向の把握に努めている。聞き出した思いなどは申し送り時に口頭で伝えたり、連絡ノートに書き込み共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、入居以前の利用されていたケアマネや施設からの情報収集に努め、本人の生活スタイル把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	人によって生活スタイルが違うことを念頭に置き、無理強いせず自己決定を促し出来る事は自分でできるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議にて日々の暮らしぶりを協議する。本年度の異常な状況をどう打開していくかが課題で、家族との話し合いは電話対応しかない。介護計画は、介護職員がアイデアや意見を出している。変更なき時は継続し、変更が必要な場合には随時郵送し、家族に同意を得ている。	入居時のアセスメントで本人・家族の思いを聴き、医師の意見も併せてプランを作成しケアしている。3か月毎のモニタリングと担当職員の意見をもとにケア会議でカンファレンスし、定期的にプランの見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	シフト制の勤務の為、連絡ノートの活用で気づきや工夫の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本年度の状況下では柔軟な対応が出来ない上に家族との交流も『面会禁止』の対応を取らざるを得ず、生活を楽しく過ごして頂ける様努める事に専念している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度は地域資源の利用はほぼできない状況である。お弁当配達やテイクアウトが充実しているので、行事の際は利用者の食への楽しみに活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医をご家族の支援の下に利用していただき、情報の提供を行い適切な医師の指示を得ている。	全ての利用者が家族の協力のもと入居以前からのかかりつけ医で受診しており、家族が処方箋を持参、希望した薬局にグループホームからFAXで依頼している。何かあれば母体の看護師がパイプ役となり、かかりつけ医と相談の上対処している。毎月歯科医の訪問診療が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体看護師による定期的訪問時に必要な処置を行っている。日常的に体調の変化があれば都度連絡相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な時には付き添い、必要な情報提供を行い、都度連携を取り合い経過や退院の調整も行っている。現在コロナの為に開催されていないが異職種研修等で医療関係者との交流にも力を入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」に同意して頂いているが、実際に重篤になられた時に、本人にとって一番良い対応を再度検討している。グループホームでは医療的処置はできず、その方にとって一番良い居場所を検討し、家族との話し合いの場で家族が決定できるよう支援している。	入居時に事業所でできることとできないことを説明している。看取りについては医療の提供ができないため、積極的に受け入れはできないが、やむを得ない場合は家族に訪問看護と契約をしてもらい、生活面のサポートはしていくつもりである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを常備し、毎月母体医療部より課題についての文書による指導がありケア会議にて配布し勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼、夜間想定して多機能ホームと合同で避難訓練を行っている。地域との協力は地域的に困難なため本部施設との協力関係を強化している。	火災や地震についての避難訓練を、隣の小規模多機能の事業所と合同で年2回実施している。年1回は消防署立ち合いで消火活動の訓練などを体験し、アドバイスを受けている。防火管理者が計画を立て、昼・夜間などの想定で訓練をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声掛けやスピーチロックを無くす事に職員一同努めている。まず利用者の方の名前を呼びかけて、話をすることを徹底し、その人の意向に添える支援を心がけている。	排泄の失敗があったり、入浴時の着替えに最も気を配っている。毎年接遇の研修を受け、利用者に向き合い一人ひとりの感情を大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話の機会を多く持ち、自己決定ができる環境を作り、無理強いしない支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの時間の流れを把握し、無理強いせず自己決定を引き出しながら、ある程度社会性を大切に生活支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容、訪問歯科による口腔ケアで、清潔感のある生活支援に努め季節に合った身だしなみを支援している。現在コロナの為家族による衣替えが出来ず、職員と一緒にやっている。入浴前には、好きな服を自分で準備してもらうよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒にし、コロナの感染予防の為3密に注意して座席の配置をしている。自分でお膳を運べる方は困難な方のお膳を運んでくださり、下膳も積極的にして頂いている。食器洗いやお盆拭き等もお願いし、手伝ってもらっている。リハビリ目的であっても、してもらったらお礼を言うようにしている。	栄養面を考慮した調理済みの料理が冷凍の状態で委託業者から届く。行事の際には業者食を断り、みんなで考えた特別メニューを提供している。中庭のウッドデッキの屋根をオープンにして、お好み焼きパーティーなどをして盛り上がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理も併せて配食業者に一括依頼している。冷凍で届き湯煎して提供しており、衛生管理も出来ている。好みで少し調味料で調節している。食べられないものは、別のものを注文し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な訪問歯科による口腔ケア及び対処法の指導の下、毎食後の歯磨きうがいを支援している。夜間義歯はポリドント洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、さりげない声掛けで排泄誘導を行っている。全員がトイレでの排泄だが、足腰が弱っている方は間に合わないことがあり、さりげない声掛けで更衣等の対処をしている。	殆どの利用者が一部介助が必要であり、排泄チェック表をもとに声掛けしトイレでの排泄を心掛けている。ある利用者は、入居後に驚くほどの改善が見られ、家族も驚き喜んで	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を付け、利用者の排便パターン把握に努めている。医師と看護師との連携に努め服薬調整や、運動、散歩で腸の活性化、こまめな水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っており、その日の状態を見ながら本人の意向を大切に行っている。ゆっくりと会話が出来る大切な時間である。季節感のある入浴剤やゆず、菖蒲等でリラックスできるように努めている。	週2～3回健康状態を見ながら入浴支援している。職員と1対1になる時間をゆっくりとり、時には柚子や菖蒲を浮かべて季節を楽しんでもらっている。利用者全員入浴を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切にくつろげる場所を多く設置している。気の合った入居者同士の会話の場であるがコロナの対策で少し離れた位置関係を配慮している。照明についても希望を聞き遮光したい訴えがあれば色紙等で調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者を決め、服薬管理をおこなっており、受診時の適切な支援につなげている。薬の効能や副作用についてもすぐに確認できるようファイルして管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きやお絞り巻き、自室の掃除で役割を持って頂ける様、得意不得意の把握に努めたうえで達成感を感じ、自信を持っていただける支援をしている。利用者の楽しみの外出でのお茶が出さない為グループホームで和菓子の日設けるなど工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の現在は外出支援はできない。少人数でのドライブをして、気分転換している。いつもの昼食を、外部からお弁当を取ったり、お好み焼きやカレーと一緒に作り少しでも楽しみを持って頂ける様努めている。家族とも面会禁止となっており、ガラス越しの面会で我慢して頂いている。	今年度はコロナ禍で地域の行事もなく参加はできていないが、天気の良い日には近くの公園まで歩きメダカや花を眺めたり、少人数でドライブし梅や桜を見に行った。また、中庭のウッドデッキで日向ぼっこや卓球を楽しむ利用者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは本部で管理している。外出の際少額のお小遣いをもって、買い物を楽しみ、自分で出来るだけ支払いをして頂いていたが、コロナ禍の今は実施できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もあるが、ほとんどの利用者は電話の取次ぎをしている。手紙が書ける利用者が少なくなっているが、電話の取次ぎで嬉しい笑顔には職員も癒されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に全天候型の開閉式ドームが設置しており、卓球台の寄付もあって、時には卓球を楽しんで頂いている。	広いリビングには多くのテーブルが並び、コロナ感染症予防のために座席の間隔を広々と取っている。壁には利用者と職員合作の色とりどりの色紙で作った作品が飾っており、男性の利用者が掲示した作品の歪みを丁寧に直し、職員がお礼を言うシーンが見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭でのお茶や昼食を楽しむ機会を持ち、椅子の配置等で好みの場所で自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族持参の家具等でなじみの空間を作っている。家族の入室は出来ない為職員と一緒に好みの家具配置で気分転換を図っている。	居室は、ベット・エアコンが設備され、その他の家具は利用者が家から持ち込んだ使い慣れたものである。テレビや仏壇・位牌を置いている利用者もいて、一人ひとり個性あるしつらえとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーとなっており、それぞれの居心地の良い自分に出来る事を十分に生かせるよう安全な環境づくりに努めている。		